

みなさん、おはようございます。6月22日告示の町長選挙におきまして、五期連続の無投票当選という大変な栄誉を賜りました。私は、これまで以上に責任の重さを感じており、町民みなさんの無投票という思いを「5期目だけれども、まだやるべきことがある。だからしっかりやってくれよ」と云っていると受け止めています。声なき声もしっかり受け止めて、これからの4年間、職員の皆さんとともに心を砕いて、「元気な礼文づくり」にチャレンジしていきたいと考えておりますのでご協力をお願い申し上げます。

まず私自身、5期目のかし取り役となりますが、昨年からは新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって私たちの日常は大きく変わり、これまでの当たり前が、当たり前でなく、新しい日常の生活様式を変えなければならない状況になっています。私たちは、町民の皆さんの命と健康を守り、落ち込んでしまった町の経済を回復させるために、もっともっと汗をかかなければならないと思っています。

したがって、あらゆる行政分野で、今より一歩も二歩もチャレンジする姿勢を忘れない町政でありたいと思っていますので、それぞれの仕事を通してコロナから町民の皆さんを守っていただきたいとあらためてお願いを申し上げます。

そして、もうひとつ。今、「地方創生」も第2ステージに入っています。人口減少をくい止めることが何にも増して求められていると感じています。そこで、私は今回の選挙を通して「地域で稼ぎ、誰もが健康で活躍する元気な礼文町をつくります」と訴えてまいりました。そのひとつが「誰もが健康で安心して暮らせるまち、生涯活躍できるまちづくり…」二つ目が「子育て・教育環境の充実と移住定住を促進するまちづくり…」三つ目は「新たな元気をつくるまちづくり…」であります。

すべて、じっと待つだけでなく、礼文島の三つの宝物を発展させて、稼ぐ地域にしようとチャレンジし、島での生活を魅力あるものにすることによって誰もが健康で安心して礼文島で暮らせるようにすることが必要だと考えています。

そのために「健康」は宝物であり、「健康づくり」「健康寿命」を伸ばす取り組みが必要になります。今は当たり前になっている「健康づくり」ではありますが、意外に、健康を過信している方が多いことに驚いています。そして、若い方に、そうした考えの多いことになおさら驚かされます。私は、健康はつくるものであり、若い頃から、こつこつと貯めていくものだと思ってきました。そして、一年に一度、その健康を確かめる機会が健康診断やさわやか検診だと思います。

誰もが「健康で安心して暮らす」ことは、大事なことでありますので、これからは、町民皆さんの「健康寿命」を伸ばしていくことが大事で、人生 100 年時代を迎えるにあたっては、元気で自分らしく長生きすることが重要になっています。

食べるものを美味しく感じること、自分の意思で行きたいところへ行ける、好きなことが自分でできることなどは、生きることの大きな喜びだと思います。町民の皆さんに「健康づくり」を勧め、しっかりと「健康寿命」を伸ばす手助けを行っていただきますよう、お願いいたします。

また、二つめの定住然り移住も、働く場があって、子育てや教育環境、住宅環境が整った魅力ある地域を創ることによって、大きく進んでいくものと考えています。ひとつは「稼ぐ」ために、ふるさと納税の返礼品を開発することはまだまだ伸びる余地があると思っていますし、住宅環境では民間賃貸住宅の整備は待ったなしでありますので、この対策をしっかりと行っていただきたいと考えています。

そして、教育の振興、特に「りとう留学」はなお一層進めなくてはならない大きな問題であります。これまでの 75 年間、礼文島から多くの若者が都会に出ていきました。

もちろん、これが、その後の、わが国の高度成長をしっかりと支えた大きな力となったことは間違いありません。

しかし、このことが都市と地方をつくり出し、今日の大都市への過度な人口集中と地方消滅と云われるような地方の急激な人口減少をもたらしました。 そんな中で、礼文高校の「りとう留学」は、島外から子供たちを礼文島に招き入れています。 卒業後も礼文島に住んで働きたいという生徒もおられるとお聞きしました。 私は、こうした若者を大事に、大切に作る島にしていきたいと考えています。 皆さんの積極的な取り組みをお願いしたいと思っています。

三つ目に、私は、「新しい元気をつくるまちづくり」を掲げました。 その大きな取り組みとして「礼文空港の早期再開」を実現したいと思っています。 選挙でも「礼文町の隣町は札幌です」と云えるように頑張りたいと話してきました。 これまでは800メートル滑走路で飛べる飛行機がありませんでしたので、北海道に要望しても空港の話は前に進みませんでした。

でも、今、丘珠空港と利尻空港を飛んでいるプロペラ機の改良型機が開発されました。 この改良型機は800メートルの礼文空港でも離発着ができるのです。 それでも、まだ少し時間がかかるかもしれ

ませんが、私は、これを機会に礼文空港の早期再開にチャレンジし、成し遂げとげてまいりたいと考えています。 札幌丘珠空港と礼文空港が結ばれば、礼文島の隣町は、空路でつながる札幌となり、北海道の中心とのアクセスも良くなり、行きやすい島、来やすい島になります。

これは、地方創生そのものであり、こうした取組みが礼文島での生活を豊かなものとし、魅力を高め、移住定住の促進につながるものと考えているところでございます。

今、空港のアンケート調査を行っていますが、こうしたことも考えて答えていただきたいと思います。

さて、これまで私を支えてくれた武田副町長は、健康に不安があり、今期限りで退任されます。 議会対応をはじめ私が出張不在の時にはしっかりと町を守ってくれました。 また、昨年からの新型コロナ対策についても、その中心になって指揮とってくれました。

大変残念ではありますが、その意思は固く、私といたしましては、これまでのご苦勞とご協力に心から感謝するとともにそのご意思を尊重したいと考え、次の副町長は庁内から任命したいと考えています。ご理解とご協力をいただきたいと思います。

私は、真面目に務める姿は、人を動かす力があると思っています。行政が誠実かつ熱意をもって日々の仕事に取り組むことによって、町民皆さんから信頼をいただき、ともに、町づくりを進める大きな力になると考えています。

「これからの4年は、地方創生にチャレンジしながら、礼文町の明るい未来を切り開くために、次の世代につなぐ新たなステージづくりのための大事な4年間」と位置付けています。その町づくりの目標を「地域で稼ぎ、誰もが健康で活躍する元気な礼文町 ～島の絆～地域の結びつきと支えあいによる島のさらなる発展をめざして!～」とし、新型コロナ対策とともに、地方創生がめざす「地域経済の活性化」や「人口減少への挑戦」を主とした施策を進めたいと考えております。

そして、これを「次世代につなぐ新たなステージ」として、町民の皆さんに寄り添う「人の和」「絆」が広がる「魅力あふれるまちづくり」を進め、役場を町民皆さんの役に立つ場とさせていただける「愛される役場」になれるよう、職員の皆さんと一丸となって努めてまいります。

礼文に住む私たちが「礼文は住みよい」と実感し、心豊に暮らすことができれば、おのずから人も集まります。

まさしく「近き者悦ばば遠き者来る」の考え、「近者悦遠者来」のまちづくりを進め、皆さんには、前向きな姿勢で、思いきったチャレンジをしていただいて、町民の皆さんの笑顔が見える… この4年間、そんなまちづくりをしていきたいと考えていますので、皆さんのご協力を心からお願い申し上げ、五期目の訓示といたします。

どうぞ、よろしくお願い致します。